

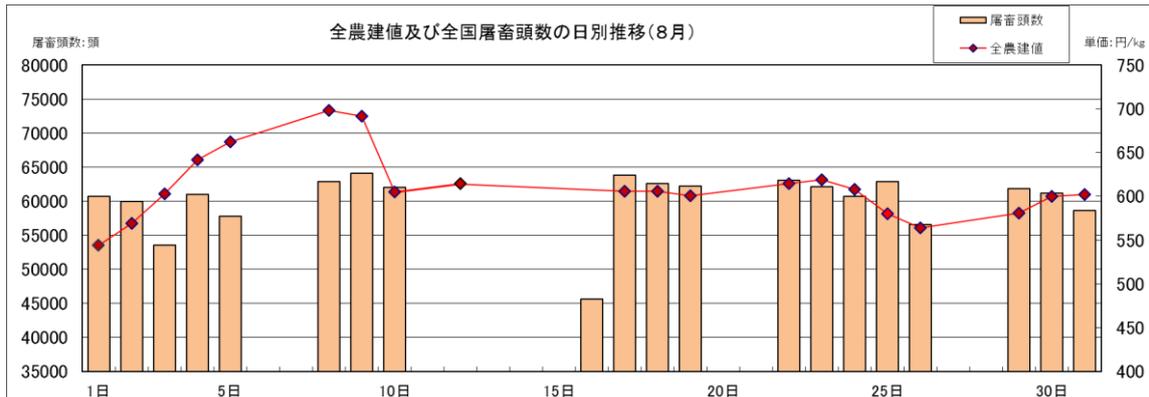
肉豚インフォメーション（8月）

【全農建値】

2022年8月（税抜）	2021年8月（税抜）
611円/kg（31円高）	580円/kg

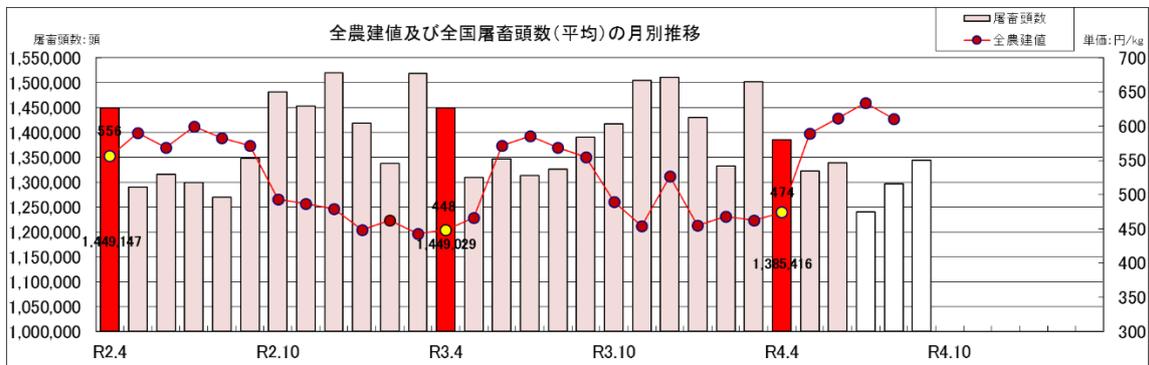
※過去30年で最も高い相場

8月は、上旬にかけてお盆に向けた手当て買いにより690円を超える相場展開となったものの、中下旬は相場がひと段落し600円前後で推移する底堅い展開となった。



9月以降の動向

9月の出荷頭数は、前年同月をやや下回ると予測されている。



冷蔵品輸入量は、北米における現地価格の高騰や為替相場の変動等から、8月はわずかに、9月はかなりの程度、いずれも前年同月を下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をやや下回ると予測する。

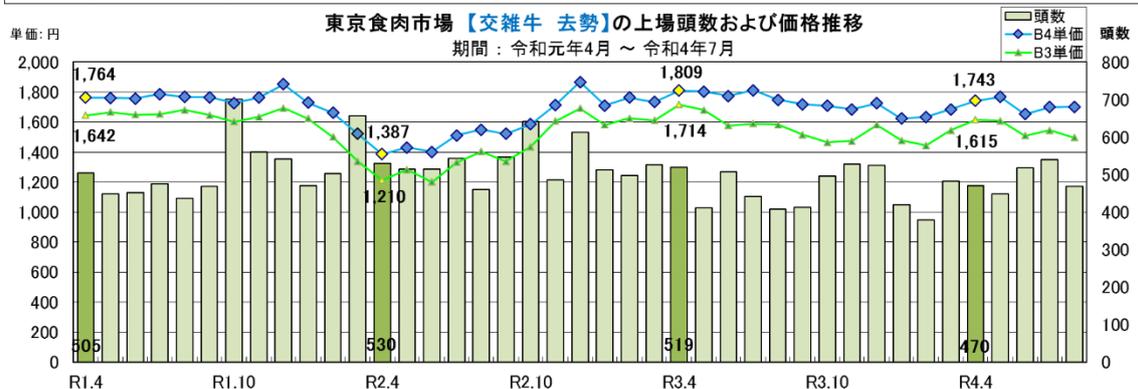
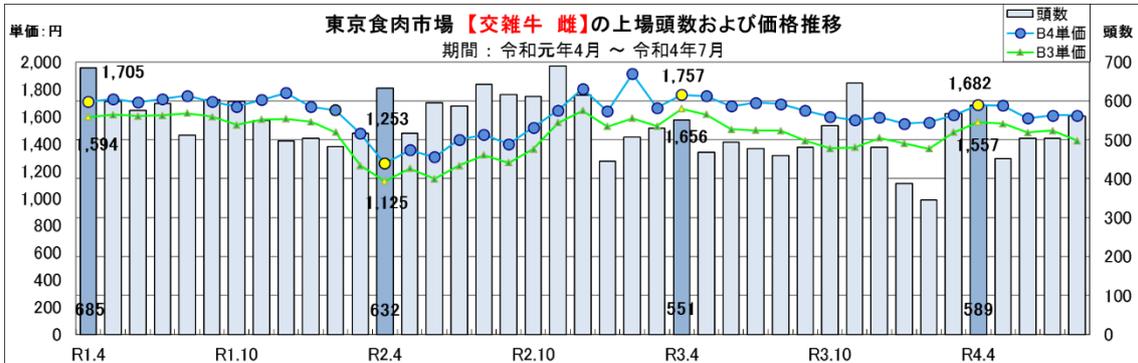
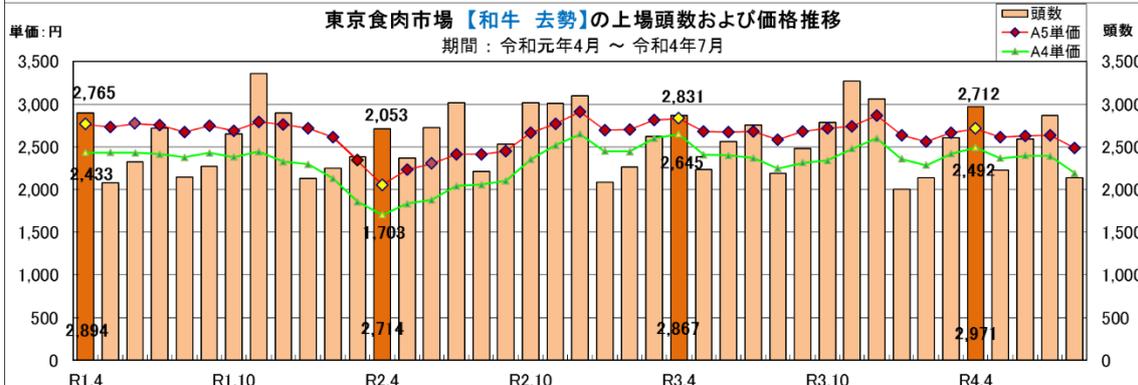
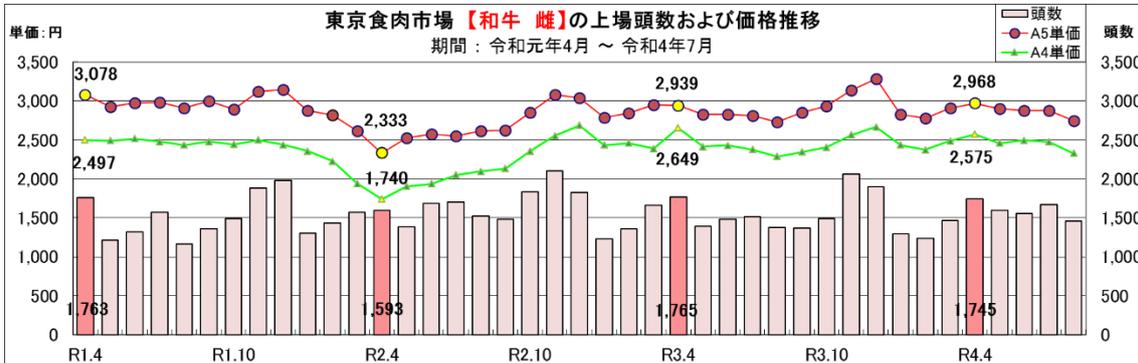
冷凍品輸入量は、買い付け価格等で優位性のあったスペイン産の輸入量が引き続き多いことが見込まれること等から、8月はかなり大きく、9月は大幅に、いずれも前年同月を上回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期を大幅に上回ると予測する。

（ALIC 豚肉の需給予測について 8月29日）

肉牛インフォメーション（8月）

● 8月の動向

和牛、交雑牛はいずれも引き合いは月末まで弱かった。和牛の4等級は7月末から200円以上上げ、3等級も2,000円台を割る相場展開となった。



● 8月の動向予測

東京の上場頭数は昨年より 400 頭少ない 7100 頭を予定。需要が低迷し、多くの卸関係者が在庫を残している中、活発な購買は期待できないことから相場は8月のもちあいと予想。また、これまで相場を下支えしてきた冷凍保管事業の終了も近づいており、先行きは不透明な状況が続く。

9月相場は「もちあい」の展開と予想。

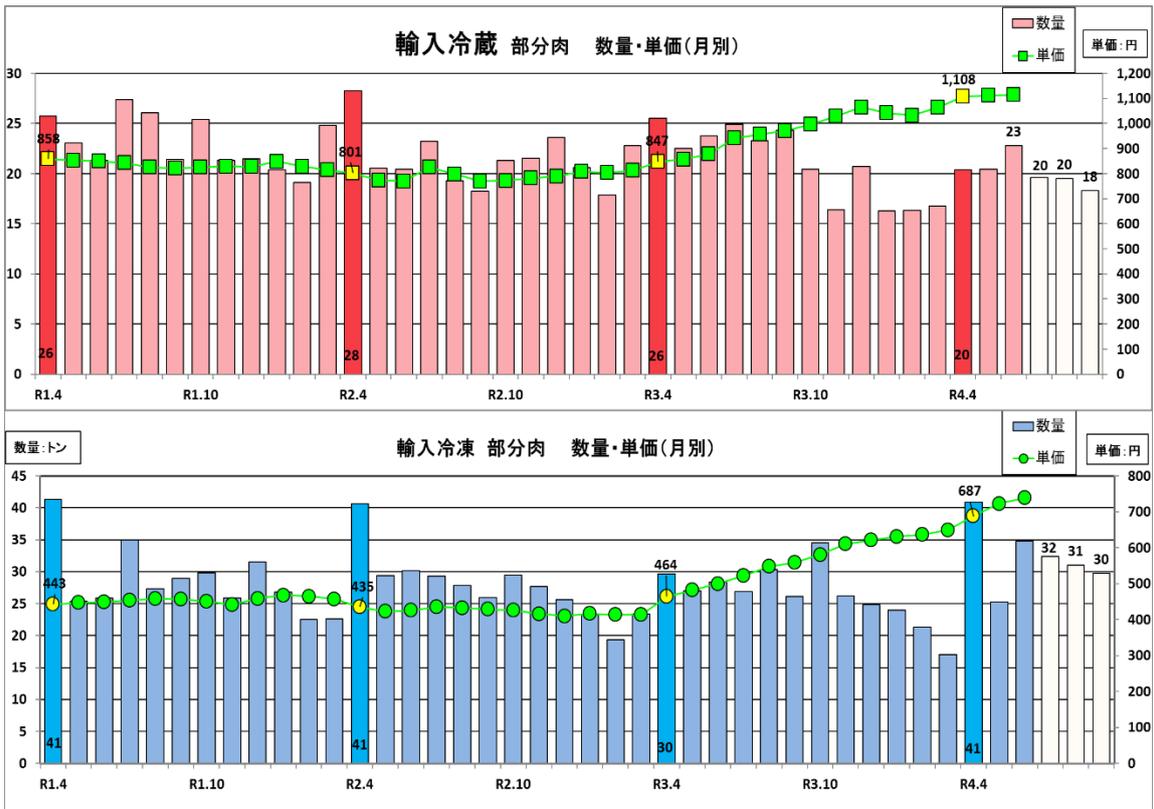
和牛去勢 A5 等級 2,500 円 (税込み) A4 等級 2,300 円 (税込み)
 交雑去勢 B4 等級 1,650 円 (税込み) B3 等級 1,550 円 (税込み)

● 輸入牛肉

冷蔵品輸入量は、需要の減退や為替相場の影響等から、8月、9月ともに前年同月を大幅に下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期を大幅に下回ると予測する。

冷凍品輸入量は、為替相場の影響はあるものの、米国やメキシコ、欧州等からの輸入量の増加が見込まれ、8月はわずかに、9月はかなり大きく、いずれも前年同月を上回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をかなり大きく上回ると予測する。

(A L I C 牛肉の需給予測について 8 月 2 9 日)



● 消費動向

8月は月を通してヒレの引き合いはあったもののロースやバラは鈍かった。9月は後半に3連休が2回控えていることや、秋口に近づき暑さが和らぐことで、焼き材やスライス材の需要も高まるため、行楽需要などに期待したい。

●全農茨城県本部家畜市場動向

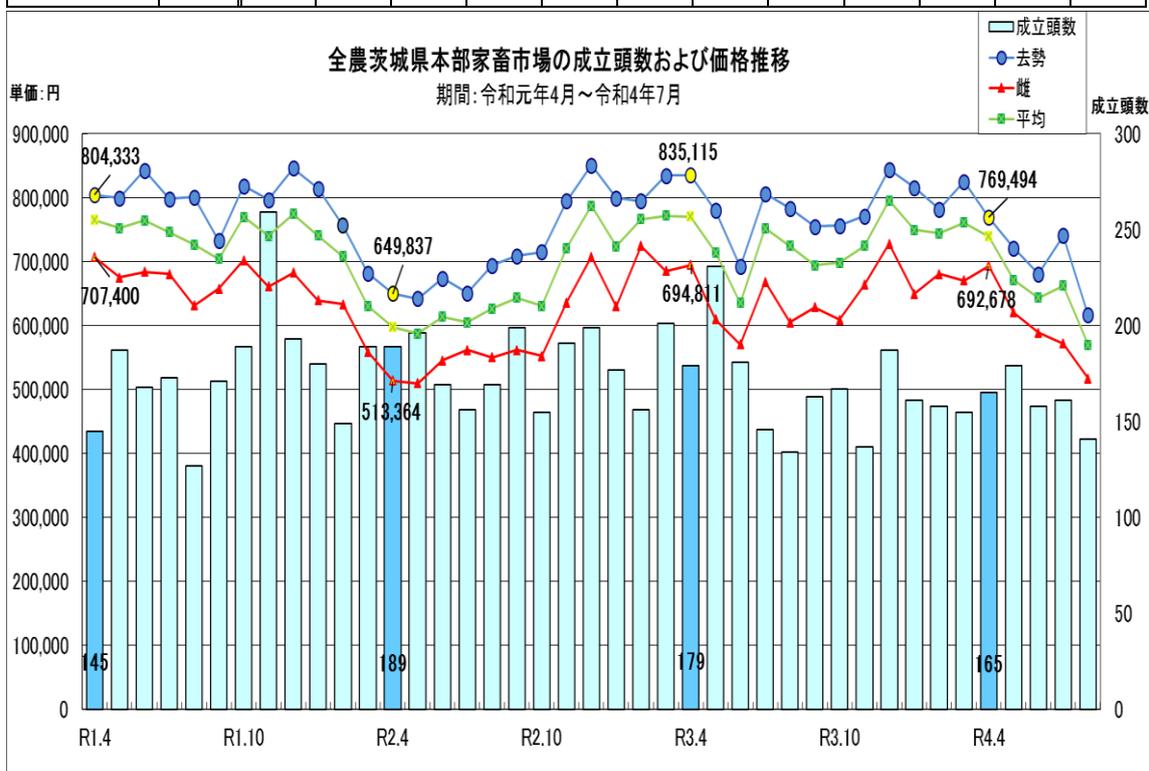
素牛平均価格（8月税込）は、黒毛和種の雌は517,150円で前月比▲54,850円、去勢は616,499円で前月比▲124,658円となった。上場頭数（成立）は141頭で前月比▲20頭。

次回上場頭数は161頭を予定している。

全農茨城県本部家畜市場実績（和牛子牛）

（税込）

	年間平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年度 平均単価	673,129	597,847	587,552	614,164	605,310	626,590	643,417	630,988	721,612	787,489	723,844	766,531	772,200
去勢	734,165	649,837	642,142	674,214	650,911	694,492	709,130	714,912	794,798	850,944	799,476	794,563	834,562
雌	598,275	513,364	510,047	545,753	561,990	550,285	562,199	552,310	635,950	707,450	630,022	724,591	685,339
3年度 平均単価	730,497	770,842	714,424	635,683	752,483	724,531	694,491	698,157	724,764	795,341	749,776	744,087	761,385
去勢	787,183	835,115	780,016	692,025	806,078	783,500	754,794	756,500	771,029	844,433	815,667	781,744	825,290
雌	648,362	694,811	609,771	570,768	668,800	605,318	628,777	608,940	663,598	728,228	649,911	680,900	670,519
4年度 平均単価	657,282	739,233	671,234	643,591	662,357	569,995							
去勢	705,814	769,494	721,233	680,689	741,157	616,499							
雌	598,320	692,678	620,672	589,102	572,000	517,150							
2年度 成立頭数	178	189	196	169	156	169	199	155	191	199	177	156	201
3年度 成立頭数	167	179	231	181	146	134	163	167	137	187	161	158	155
4年度 成立頭数	161	165	179	158	161	141							



食肉インフォメーション（8月）

日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査7月度結果報告によると、行動制限が掛からなかったことから全体売上は前年比で114.5%となった一方で、月後半からはコロナ第7波の感染拡大の影響で店内飲食の客足が伸び悩み、失速してしまった。

量販店については、日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の7月の販売統計速報によると畜産部門の売上高は1,110億円(前年同月比100.6%、既存店ベース99.2%)で、相場高騰の中でも感染再拡大による買いだめの動きにより、前月と比べると回復傾向となった。国産牛の焼肉用や国産豚の冷しゃぶ用が好調も、輸入牛や輸入豚で価格高騰が続き、比較的安定している鶏肉へ需要がシフトする動きがみられた。

8月は中旬の盆休み期間での消費拡大に期待がかかるが、猛暑やコロナ第7波によってBBQ・観光は伸び悩む懸念もあり、不透明感が強い。一方で屋外活動自粛の反動による量販店での特需を想定する見方もあるが、盆明け以降は需要も落ち着き荷動きも鈍化するとみられる。

○牛肉

7月は、BBQや焼き肉向けの盛合せ商材として切落しなどのスソ物や、バラなどの焼き材を中心に荷動きがあったが、物価上昇が続いたことによる節約志向の強まりから和牛など単価が高い商品が不振で、特にロースは和牛・交雑ともに動きは鈍かった。輸入牛も引き続き価格高騰や在庫不安から不透明な状況が続いている。

○豚肉

7月の国産豚では引き続き輸入物の代替需要が続いた。一方で、猛暑での成育不良による出荷頭数減少により需給が締め、堅調な荷動きとなった。輸入豚はバラの引きが依然強いものの、円安相場による仕入価格高騰やコンテナ不足による供給不安が続いたことで先行きの不透明感が強く、全体的な動きは弱かった。

○業態別概況

表：全農いばらき食肉センター 業態別取引先実績（令和4年7月期） 単位：千円、%

年度	J A	どきどき	給食	仲卸	食肉 専門店	量販店	飲食店	合計
令和2年7月	12,005	15,901	6,460	42,399	22,256	11,693	6,160	116,874
令和3年7月	11,550	16,221	4,922	37,321	13,516	13,203	10,410	107,143
令和4年7月	9,750	16,954	4,154	29,679	19,098	12,253	7,117	99,005
増減 (R3-R4)	-1,800	733	-768	-7,642	5,582	-950	-3,293	-8,138
対比 (R2-R4)	81%	107%	64%	70%	86%	105%	116%	85%
対比 (R3-R4)	84%	105%	84%	80%	141%	93%	68%	92%